

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和六年六月度 入賞句一覧 投句数 五百八十九句

特選

大西 誠一 選

箒目に涼しさ貰ふ宮の杜

安八郡神戸町 早津 郁男

小生もかつて京都吟行の際、龍安寺の石庭で「箒目を崩さぬ程に時雨けり」の句を詠んだ。いつか夏の時期にと思っていたが、それきりになつていった。今回この句に出会えて本当に幸せである。中七の「涼しさ貰ふ」が大変すばらしい。ご本人に会つて、どこの宮の杜かお聞きしたい。

夏布団飛ばし眠る子どもな夢

大垣市 宇津 香代子

作者は八十代。私より少し年上の方。私も子育てを終え、月の半分以上を俳句に捧げる生活を送っている。夏布団を蹴飛ばして眠るお孫さんの顔を眺めながら、今どんな夢を見ているのかと想像してのお句である。俳句に一番大切な臨場感があり、秀句となつた。

補聴器やピアノソナタと紫陽花と

大垣市 水谷 義雄

句会を行う際、今一番困ることは、仲間の聴覚の減退である。幸い私は耳は良い。お互いに助け合い、席順も考えながら会を進めている。この句の良いところは、少し耳が悪くなつた作者に暗さが微塵もないことである。紫陽花を見ながらピアノソナタを聴けるとはなんとすばらしいことであろうか。

秀逸

はす掛けに変へる肩紐夏めきぬ

岐阜市 伊藤 をさむ

ソーダ水本音語れる友のゐて

岐阜市 廣瀬 あや子

雑巾を硬く絞るや梅雨に入る

大垣市 安田 むつこ

つつがなく寝て一畳やみどりの日

東京都世田谷区 関戸 信治

身元メモ付けたる考の夏帽子

大垣市 宮上 稔

博多帯矢の字に締めて菖蒲園

大垣市 村井 娑婆

逝きてなほ夫誕生日届くバラ

不破郡垂井町 竹嶋 富美子

句会へと心はずませ白い靴

兵庫県加古川市 戸田 みつよ

補助輪の取れて若葉の風の中

大垣市 松岡 みつ

やどかりの半身のり出す子の馬穴

愛媛県松山市 平野 ヒサエ

入選

しつとりと雨に合わせし春の服

埼玉県所沢市

坂井 傑

居間で聴く「ひばり」の演歌昭和の日

不破郡垂井町

久保田 紘義

打球音あおぞら高く茅花風

大垣市

早筈 千恵子

母と言ふ名を賜はりしサクランボ

大垣市

大角 信子

薄暑光瓶で飲み干すハイネケン

東京都新宿区

花澤 ちいこ

つばな流し金波銀波に陽が沈む

大垣市

岡田 あや子

色褪せてそれでもなおと鯉幟

大垣市

川瀬 恭子

故郷を出る吾と母とソーダ水

東京都狛江市

椎野 一恵

袋掛入り日せまり来伊吹山

大垣市

小林 研

抱きし児が目で追う先に蟻の列

大垣市

米川 弘子

竹の皮脱ぎつつ親を越しにけり

福井県敦賀市

山田 美千代

篠笛の名手草笛ままならず

東京都江戸川区

羽住 博之

ゆふらりと嫁入り舟や行々子

愛知県豊田市

城山 悠水

滴りは山の心音山の声

三重県三重郡

水野 悦子

弁当は海賊むすび青葉山

広島県福山市

中常 かつたろー。



選者吟

八本の揃ふオールや風薫る

誠 一

一般の部